

特集

もつと社会へ目を向けよう

|| 新型コロナがもたらしたもの ||

新型コロナウィルスが世界中を駆け巡り、感染拡大を防ぐため取られた自粛生活。経済も滞り、社会のひずみが浮き彫りになったと言われます。弱い立場におかれた方々の状況をお聞きします

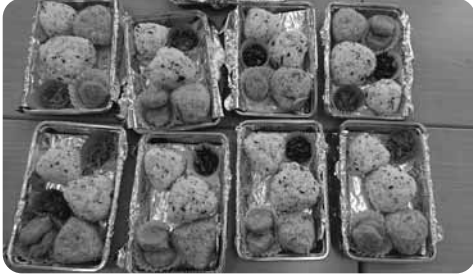
NPO法人

「くまもと支援の会」の活動

理事長 古川 雅俊

私どもは、熊本においてホームレスの方や生活困窮者の方の支援活動を行っているNPO法人です。現在は、数名の理事とボランティアの皆様で活動しています。具体的な活動としては、月に一度、ホームレスや生活困窮者の方に、おにぎり、薬、生活必需品や季節に合ったものを配布しています。

おにぎりは、市内の教会やNPO等を中心に、12の団体が毎月持



ち回りで作ってくださいっています。

安否確認をしながら、体調や困ったことをお伺いして、対話を通して孤立を防ぎ、心配してくれる人がいるという安心を感じてもらえるように対話を行っています。コロナ禍においては多人数・近距離で集まることが、感染リスクになるので、その点は気をつけながら、最小限の人数で活動しています。また、支援物資にマスクを用意して配布しています。

近年、生活保護の受給により支援の対象者の数は減少しています。とはいえ、コロナ禍において本当に困っている方々は、まだまだたくさんいらっしゃると思うのですが、私たちが困っている方々を把握できていないのが現状です。私たちの活動が、あまり認知されていないため、もつと私たちの存在を知ってもらい、多くの困っている方とつながることができるよう広報活動も今後重要になると考えています。

コロナ前においてもコロナ後においても、しわ寄せがくるのは弱い立場の方々です。これからも困っている方々のお役に少しでも立てるような活動を行ってきたいと思います。

コロナ禍での寄り添い

児童家庭支援センター・旭ヶ丘
主任相談員 坂田 学美

「直接、子どもや保護者に会えない」「ショートステイなど、必要なサービスを十分に提供できない」…この中で一体どうやって虐待防止や命の維持に務めればいいのか。電話相談しか手段がなくなりましたが、その手段を最大限活用するために、育児のことだけではなく、体調や家での過ごし方など、これまで以上に家庭のことを聞くようにした。自粛で仕事は休みになり、時間

に急かされなくなると、子どもの良い所を見られるようになった方や、子どもに合わせた生活スタイルに変えることができるようになった方もいた。普段は「子どもが言うことを聞いてくれない」「子どもから離れたくない」といった訴えが聞かれる。私たちは、その訴えに、育児のことだけに焦点を当てて話を聞きがちかもしれない。しかし、そこに真のストレスや訴えが隠れているのではない。心身や時間の余裕ということも大事な視点かもしれない。「うちには何も問題はない」と支援や介入を拒否する家庭や、困っているという発信が少なく疎遠になりがちな家庭もある。しかし、体調確認という形でも、連絡を続けてきた時に、「どうにか命を維持してほしい」という願いと、純粹に「あなたと関わりたい」という思いがあった。日頃は問題ばかり探していたのかもしれない。連絡を地道に続けることで、関係性が深まり、普段話しにくいことが聞かれることも増えた。関係づくりに立ち返ることで、支援者が家庭の良い所を見出すようになり、相談者もそれまで発揮するチャンス逃していた良い面や潜在的な力を発揮していった。関係づくり、それも温かい人間的な関わりこそが、児童養護への一助となるのではないだろうか。

日本で暮らす外国人

牧師 徳弘 浩隆

新型コロナウイルスが影響しています。なかでも、ニューカマーと言われる生活基盤が不安定な日系人、技能実習生や留学生たちです。私が出会った範囲で紹介します。

課題と現状

情報伝達 日本語情報ばかりで良くても英語ですが、英語が分かる人ばかりではありません。防災無線・行政無線が始まると「何を言っているのか分からず、逆に怖い」と質問があります。私が日本語を教え、お世話や交流をしているのは、インドネシア、ベトナム、ブラジル、カンボジア、ペルーやボリビア人などですが、彼らがアパートや職場で話す共通言語は「やさしい日本語」です。政府の給付金も受給資格があると知らない人も多く、「説明会をし、書類も手伝う」と外国スーパーと協力しました。私は岐阜県災害時語学ボランティア登録し、研修会にも参加しました。

仕事が減った・増えた。帰国・入国できず

都市圏では失職し苦しい人も多いと聞きます。自由に転職できる日系人が切られることが多く、ブラジル人教会は食材配布支援。技能実習生は職場指定3年契約で、解雇は少なくても工場が倒産し、見捨てられ

る。帰国困難なベトナム人に、宿と食糧支援するお寺も。岐阜の技能実習生は、後輩が来ず人手不足となり、残業が増えてきついです。

孤独、外出禁止 来る予定だった後輩や恋人が来られず寂しいという人も。生活費を節約して連休に旅行するなどの楽しみも中止。アパートに引きこもりで日が過ぎていくという焦りやむなしさも。そんな反動もあるのか、飲食店や会食でのクラスターもあり、「外国人クラスター」と報道されます。また解雇され生活苦で盗みを働いたとのことで「〇〇人が窃盗」「家畜を殺して盗んだ」と不要な国籍情報も出、差別で辛いという人もいます。

ビザ 年に二度の日本語能力試験が昨年7月は中止。特定技能要件を満たせず、困っている留学生も。ビザが切れるが試験はまだ合格できず学校も終わりアパートも無くなるので心配と相談を受け、県の外国人支援施設に相談、入管へも。幸いコロナ禍が勘案され、「特定活動」のビザ申請できると聞き、胸をなでおろしました。しかし今後生活支援が必要な状況が続きます。

どうお手伝いするか

皆さんの地域でも「ブラジルマーケット」と検索してみてください。そこはニューカマーの外国人たちの情報拠点ともなっています。話しかけは、小学生くらいに説明する要領で、難しい単語を使わず、短い文章の「やさしい日本語」で。(岐阜・大垣教会)